週刊 磐城之實業
（郵便物認可 昭和八年九月二十四日 第二百十一號）【一】
（郵便物認可 昭和八年九月二十四日 第三種郵便物認可）
（郵便物の報道と評論）
毎週日曜日發行
發行兼編輯人 大和田與兵衛
印刷人 大和田與兵衛
印刷所 大和田印刷所
發行所 磐城之實業社 電話五五番
定價 一部金五錢郵稅共 一ヶ年分金二圓廿錢 一ヶ月金二十錢 廣告料 一行三十錢 但場所指定ノ分十錢
本紙の主義 主義信條 本紙の紙面は何人たりとも本紙の費用を以て自己の意見を發表し又は他人の言論を快諾し當社に紙面を提供して之を解放す 本紙上の記事に於て曲解或は誤報の場合は本紙より申込あらば直ちに訂正するは勿論進んで之を取消すべし

平地の自動車關係

法規の蹂躙を疑らる

内容暴露に遺憾事無きか

本紙は前號に於ても平驛前に於ける其筋の自動車取締の放任主義を批判したが彼等營業者は平町役場より正式借地もせぬ七坪の土地をサモ借受けたかの如く裝ひ居るも其筋では之を停留場として公式に何時認可したか交通最も頻繁な場處にして巡査派出所の直前に於てボロ自動車數臺堵列なさしめて往來を吐絶し置くことは何たる取締りぞや然も附近商店より數回に渡つての陳情あるには非らざるか然のみならず兎角自動車取締に對しては法規の存在ある程の問題が多々あるを遺憾とする其一例を示せば車庫の處在地と道路關係にして平町者中此の規則に違背せざる者幾人ありや此取締必ず公平なりや昨今平驛構内公認自動車二臺增車問題は思ひ半ばに過ぐる情實關係を暴露し居るではないか當事者の善處を希望するも場合によつては堂々たる筆陣を張ることを言明し置く

東京便り

星製藥の和議成立

二千二百萬圓の巨大の債務

中ノ作築港と平小鐵道と人の動き

地方關係として平小鐵道存續か

佐藤代議士の活動

本部に重きをなす

比佐代議士

武勇傳二人男

喧嘩は飽迄戰ふの勇氣はあるまい

買入に大車輪

平地方の喰肉

小野町長と鈴木代議士

鐵道囑託醫に怪聞

醜惡極まる暗躍振り

研究會の分解作用

村是の確立

謹告

朗な世界

作者 四倉町 酒井源太郎

（一）
月の世界に住む兎
門けき下界に憧かれて

（二）
咲くや香りの花の中
驚る小鳥や囀かひて

（三）
深山へ流れを辿りつき
ボーボーフクロを友として

（四）
鶯歌ふ靉々も
鳴くコロギの初聞きに

（五）
秋のもみぢも折づきて
秋空高く月冴えて

（六）
あふゝ愛に月影は
名殘りを袂もの世帶へんと

（七）
映る面影ありくと
幾千代かけて變らざる

（八）
月に兎を眺めては
無量の感じ胸に滿ち

歌ふ御方は句調御簡意に……目下某氏作曲中
本紙第二百七號所載「招くが合」作歌中左の落字並誤字訂正
（九）二原の落字を加へて
（十）二國の誤と叫びつゝと
（十一）

小名濱版

何の理由で防害ぞ

◎世の中は千態萬様で一律には行かぬ愚者あれば賢者もある賢者もあれば味噌もあるこの千態萬様の形状を能く知悉して初めて自ら安きに居るものであるかなかくそうは行かぬものである

◎近所本社が小名濱町の發展に伴ふ祝福の意を以て『新興途上の小名濱を語る』の小冊子を編纂する事を紙上で發表すると共に關係町有志の援助を請ふべく其門を叩かしめたのである編纂の趣意を聞いた具眼の士は其擧を賛してその成功さへ祈るものさへある、これ普通一般から見當然と云ふべきである

◎然るに之の擧を目して一部淺識者は如何なる感に動かされたか小名濱町を呪ふの一つだと稱し更に敵對的立場から見ても一備すべきものにあらずとか既へ取扱をつけて総むに其成功を阻止せんとして居る事を聞いた初めは小名濱町民たるものが此擧に對して如何の非常識淺のあるべき筈なきを信じ路傍の風評として耳を貸さなかつたのであるが其運動が表面化して熾烈猛烈を加へ來るに見て其馬鹿さ加減の本格的なるに驚いた

◎然し能く其行爲を見ると實に唾棄すべき醜悪の虚偽たる事を知るを得たのである、即ち各々民輕がある、その長から擧へ擁を擧げて自己の功となさむとする彼等の成行は天も人も許し難き非であると斷ぜざるを得ぬ

◎更に言ふ若し正々堂々に反對に理由あらばなぜ表面から其主張を高唱せぬか、從に自己の觀れる目的を以て他の事業を阻止するが如きは、その何等の理由なるかを知らしめ得ぬ彼等は少くとも町の爲機に拠はるべきの地位を占め小名濱町の爲めに一臂の添ふる事業に對して即ち解なきは愚も又甚だしと云ふ可きものである

◎殊に皆意を表したる者をさへ之を強く唆して取り消しを申込ましめた例は他に見ても取りも直さず營業妨害と云ふを得べきではないか之を要するに彼等は反對せんが爲めに反對で其愚や嗤ふ可しである

◎然し昔から愚と見たら踏むべからず馬鹿と見たら構ふ可からずと云ふて居る茲の如く馬鹿の如き彼等に對して之を真面目に論ずるを潔しとするものではない只、吾人は昔の士工つき合當時に於ての立場とは其立場を換た今日に代て相離らず、其氣で居るは時代遅れの甚だしきものとして茲に反省を促す爲めに一言を費す次第である

『新興途上の小名濱を語る』編纂に就て

△本紙上で發表した如く小名濱町現在の狀勢に徴して現況を語るの資料たるべきものを撰び小冊子に編纂せんと企圖し漸く其編纂を終了し、印刷も出來近く刊行の域に進むだ此時有志の援助を辱ふした材料を提供されしを深く謝するものである

△由來此種の事業は決して容易ではない殊に何等によるべきものもない場合、何れに信を置いて執筆するか是が甚だ迷へなきを得ぬ此の際た場合に遭遇しての編纂の心得は能ざ記錄に重きを置き若し記錄なき場合は口碑に依ると云ふ方針を得て編纂に取り掛つた

△更に史眼を以て嚴肅に論據を確め今日の是非を論ずるなども非才なの編者の立場としては隨分苦心を要したものである只管ひに諸君の期待に添ふなれば此上なき喜びである

△編纂を終るに臨むで茲に謝意を表する次第である

昭和八年九月　編者誌

新町議の側面観　佐川榮次郎君

鳴かず飛ばず局長として三十有餘年、營々として勤勵して居る佐川君は非常に半稀の強い忍耐力の勝れた人である局長と言ふと小名川君を思ひ出す勿論佐川君との先驅であるが氏の對抗者ではなく局を辭して役場に轉じたそれは係給から來た關係もある然し其係給係も、其後改訂されて却つて局に不利勵した方がよかつたと云ふ程給職迄推持つた斯様に氣をもむ時でも彼佐川氏は落ちつき拂つて漸給に甘むじ居たと云ふ一事は高評を推察し得より間もなく支給法が改正されて一躍局長代理として局の一切を背負つて立つ地位を占めた而して未だ飛ぶともせずに隱忍自重して時の至るを待つその年の強さ誰が證かどる者あらう

所が昭和四年の町會改選の時機に選出した彼の力を試ずべき時機であつたそれは彼が推むとする者が強に門を開く然し彼は敢かなかつた敢かぬではなくその信用の限源を見た佐川松太郎氏に從つて徐ろに試しやつた松太郎氏は誰から見ても彼以上はなかつた一部の見ようでは彼が町長として居られるかたとも候選したものもあつた所が榮次郎君は必勝を期して勵つた此時の結果が中選以上で當選した此時勇えた君の腕は將來の競選として見居たものだ

四年の局籍は流れ本年六月改選の幕が切られた出でざる可しと見られた榮次郎氏は突如として名乘りを上げ、驚いたのは四五の俗輩だ只松太郎氏の時と違ふて君の腕を見るに際會は餘りに不似合であつたそれは新町長の選定で紛糾となつたからである彼等人だ感所存むと自己の財力でも學問でも舌でも彼等に勝てぬと嘆くとの心が存むだ上のシャレを儘くにたらぬが然し彼心と云ふものは境遇に依つて變つて來る今の彼の立場から見て常にそう考へるかも知れぬがそこに彼の短所が認はれる、實のある經驗が缺けてこそ町の人物であらう今や局長の存在では決してない一町議として町の代表者たる以上、財力あり智力あり而して熱意あつて初めて眞の代表者たる資格を具備するのだそれあるを一般にかける事は大をなさる、源因となる彼たるもの自省すべきものである

新興途上の小名濱を語る
磐城通信社長　小野務平氏　執筆

文獻は各方面の注意を喚起し富岡町長早川鐵久氏を初め續々申込あり、目下紙面を整備し刻未中なり大方各位の御期待に背かざらんことに努力致して居ります

現在の小名濱町を縱横に解剖批判しての全貌は其の大勢を明かにして將來への動向を究めんとするもので有ます

其内容の一二を示せば延享三年寶年傳兵衞が初代の代官として二十五代百八十五年間に於ける陣屋の變遷、或は明治十一年一月小名濱町戸長役場が八十餘の預算に初まつて今日十萬を突破する大小名濱を形成したる消長を語る處など一讀に値するは言を俟たざる所で筆者郷土の調査研究に熱烈な心情と苦難を排しての努力は敬服推賞すべきものがあります

愈々近日發行す【磐城之實業社】

中央で活躍する郷土の名士
飯塚清君（六）

昔から出藍の孝子は一家の繁昌めか一家の窮亡の時に出でると言ふて居る或はそうであらうか然しそうばかり行かぬ實際を擧つたこれは本文の主人公たる飯塚清君に見て然かるものがあるを思ひ浮むだ

飯塚清君は本町字橋本十四番地飯塚勝次氏の令弟である、勝次氏は既に六十の坂を越へた白髪の人、而して一人の親戚、然も老母である、母に仕ふる情に厚く、其命令には水火をも辭せぬ孝心を常に持つて居る時見あつて弟の不幸な將がない況んや高等教育を受けた清君に對しては尚更である情である

清君は母の側に侍り得ぬ立場である所から常に心を安める爲めに母の命に背かぬ其出發から云ふと實に涙ぐましい程の孝養心が躍如として居る清君に一人の兄があつた三郎君と云ふのをある、此島師範學校に入學して三學年の時に暑休み中に歸省して居たがフトして水浴の爲めしに誤つて溺死した其悲歎は云ふ可くもない殊に老母の悲嘆ときては見るものをして同情の涙を禁じ得ざるものがあつた時に小學生の清君は母に對つて三郎兄の遺志を繼ぎ母の悲嘆より救ふ可く誓つた當時清君は流れて清君の十七歳の時其豫備試驗に應じた

然るに見事入學の榮冠を占め母の喜びは三郎兄と同樣の喜び以上であつた事は勿論である

苦學力行四年間の難關を卒へて二十二歳の時に本校と共に餘川小學校に赴任しそして兄の爲めに一心不亂に教鞭を取つて居る事九年三十歳を迎ふる清君の向學心は決して斷念しなかつた唯老母の心に逆らふまいと驚くとして教職を續けたのであつた

然るに清君は一小學校の教師に終らうとは考へなかつた其絶ざる向學心を助長せしめ少くとも中等教員となつて立ち更に大學に遊び後居の志を成就しなかつたのはの前途母の心や如何にと案じ遂に九年を經過したのであつた

先づ兄に相談して兄の承諾を得、兄と共に母に縋つて勉學の必要を相談すれば君子を知る親に斯かずで其志を抑止する事は出來せなかつたそこで學校を携むだ先國學院大學の高等師範部に入學する事を語つた母の同意を得たる清君は何時ともなしに勉強した其甲斐あつて入學試驗に應じた

然も優等で入學を許可され再び同徒となつて國學院に學ぶになつた勝次氏は家業を勵み清君の爲めに能く必要の學資をつぎ後顧の心配をかけず四年間の勉學を助けた之に力を得たる君は出來得る限りの勉學をなして居たや兄の助勢に報いんとした其功あつて三十五歳の時、此の優等で卒業したが此時も向學の志を曲げず更に大學部に入らむとして密かに入學試驗に應じた所、幸か不幸か及第の喜びに迎ふた所が母より此の事なくも故障が起つたそれは修學の時機は終生である何時までもない一應打ち切つて母の意志で生徒に選る事となつたこれは母の意志もあつて本志でないのであつた

之を聞いた清君は大學に入りたい所は滿々あつても一パイではあるが母の命に背けぬと入學試驗に及第して居るのを學問の如く棄てゝ顧みぬ、其孝心は君でなければ出來ぬ殊勝であつたそして先生の周旋によつて水戸中學校に教職を勝つて居る

爾來數年を經たる今日、君の正しき存在は文國と言はれた、水戸市に光輝を放つて居る一方老母の爲めには常に夏秋冬の休暇を懇らざると同時、寸暇も老母を慰めにる所に君の孝心が躍つて居る

嗚呼世間は廣い清君の如き孝始一貫母に事ふて他心なきは珍し。母堂は既に八十の歳を迎へたる勝次氏の膝下に在りて内よりの孝養、清君の外に在りて謹す孝養とが一丸となつて此母をして餘生を樂しからしむるもので實に郷土の爲めに範を示すものである

四倉版

郷土出身の奮闘家
成功者を推賞す
佐藤辰右衛門君

◇東京市に於て郷區鵜島に堂々たる邸宅を構へ巨萬の富を蔵し金融業をなす人と謂はも決して普通一般の商人たる金融業者ではなく多分の俠氣の所有者である

◇財界の表裏に通じ財政經濟については大家の識見を有するが故に將來に於ける君の活躍は蓋し刮目に値するであらう

小春風秋雨、幾多の辛酸只中で多年の奮闘努力は今日大成も又當然とすべきであらうが君は此の成功と手腕一身にかけるよりな機源才子と異り何處迄も真面目に男らしく推進むで行くあたりは當代得易からざる逸材と言はねばならぬ

◇然も俠氣に富み包擁力大にして如何にも男らしき處など雅量かをなすものである、年と共に信望厚く加はり頭腦の明晰、經驗の深遠なることと相俟て將來を瞻望するに難くない譯である

目的達成の期成同盟を解散し速成同盟組織せよ

四倉漁港期成同盟會は其目的を達成したるを以て之が解散をなさゞるべからず然れども竣工一年後の今日、工事の有様は實に机上の模寫とか云ふべくして不安に佩聯され仕事過程たるや欠陥山積して技術上の缺陷露明瞭を有するの怠務擔任とも認めらず寧ろ設計の缺陥に前途は暗澹たるものがある

× ×

彼等が力なく經驗なき所謂傳統的根性の所有者の支配下に完全なる工事の施設に望むべくもなく又飛躍的金儲能を發揮すべき筈なしとせば全町民は激働實任ある漁港完成に堅實なる歩調を統けねばならぬ是が即ち速成同盟會組織の必要ある所以である

× ×

斯町の精神を肇めて漁港の關係は漁港修築期成同盟會長小松宗吉氏を初め全會員運動其功を高調すべきものであつて町民は感謝すべき事は言を俟たざるべからざるも併造つて魂入らざれば目的を達したりとは謂ふを得ず此處に先の會員をして再び速成同盟會員となし所謂有終の美容をなして最後の美を結ばしむべきである

× ×

現在工事の實相を觀て居る町民は恐らくは中途半端の繰返し方針であるを發見するであらう工事の進展期待すべくもなく遅れると共には地方經濟に重大なの關係あり町の發展に危險不安あり町民一般は宜しく真劍にして完全なる實圖は漁港を積極的に認識して看守監督すべく速成同盟會を組織すべきことを吾人は力説するものである

廃船處理

當町海岸に多數廃船の堆積し醜くことは活躍時代の昔を物語るには好材料たるかは知らないが、あれは町の發展を阻礙に物語るもので新興気分には大なる障碍物である、又町の美觀も海岸の衛生からも廃棄すべきもので斯る廃船を存し置くだけに漁業組合の內容も察知され惡評されるのである價値なきものを價値ある如く組織上の形式を整へて苦しましい思ひをして居る事はあるまい早く整理するが町のためと工夫を講ぜられよ

地方縣議の實地調査
縣會の重大問題化さん

當町の港湾工事に對する縣當局の無定見なるより二萬餘圓を殆ど無用の機械は全々使用し得ずして其儘となし工事の進捗に一大支障を生ぜしめ在らのみならず掘鑿の場處には激浪の起る度每に土砂の山積を崩しく其前途の完成は實に不安なるものがある今にして設計變更の必要あるべし此情狀を聞き傳へたる地方縣議は秘に實地調査をなして專門技術家に依り今や研究しつゝ居るとの事なれば來るべき縣會には一大問題となることとなるべし

増設校舎 廃木處分

白岩官木の拂下げを案外格安に然も良材で見事なる校舎の増築は好成績の新設町長に感謝すべき點が多々あるが殘念が多數にあるので學校當局は建設と校長住宅の新築とが同時開催化して來たが餘結は多額の費用を要し後者は僅少を以て出來得るのであるとするも其必要は認められど財源に苦しむしむことは當然で然し學務何れかは實現されるであらう

久之濱町 町長努力

木村倉治氏は同町長として町民一般より信頼厚いが目下工事中の漁港に對しては特に非常なる努力を拂へ其完全の竣功を期待され居るなかく\の敏腕家なるより一層の苦心を有すと云ふ